

第3回 人★インタビュー Season2

県西支部 筑西市 若杉行政書士事務所

～若杉 國康先生インタビュー～



(聴き手 通信員 鈴木 智絵)(写真 増戸 支部長)

先日、長塚節文学賞を受賞された県西支部の若杉 國康先生。行政書士業務の傍ら、毎日文筆活動に励まれております。行政書士として今日に至るまでの、波乱万丈な生き様を伺って参りました。

(通信員) 開業のきっかけについてお聞かせください。

(若杉先生) 法学部の出身だったこともあり、昭和62(1987)年に宅建業を始めたことがきっかけでした。土地の売買や収益物件の賃貸には行政書士の能力・知識が必要であると感じました。そこで平成元年(1989)に行政書士登録しましたが、農地転用と開発許可は不動産取引に付き物です。自分で申請してみたことで理解度が深まりました。

(通) 前職で役立ったことはありますか。軌道に乗ったきっかけは何でしょうか。

(若) 昭和43(1968)年、兄と一緒に会社設立をして、金魚養殖を皮切りに当時流行した熱帯魚の販売や釣り堀の経営などをしていました。順風満帆だったものの昭和48(1973)年のオイルショックで事業が立ちゆかなくなり、割烹料理店に転向しました。こちらも繁盛しましたが、店は妻や妹に任せて今度は熱海などから活魚を仕入れて販売する水産会社を立ち上げました。そんな中、不動産バブルが始まり、少し不動産業を勉強していたこともあって宅建業を始めました。

行政書士開業後には、平成不況で経営していた会社が2つ潰れ、そこからが大変でした。開業したところのお客様のご助言は大変貴重で、例えば倉庫業の依頼があり手続き方法がわからず困っていましたが、知り合いの社長が快く資料を見せてくれたおかげで業務を完遂できました。声をかけてくれたことが、とてもありがたかったです。

(通) 得意分野の業務はありますか。

(若) 建設業・産業廃棄物・運送業を三本柱に関連業務を行なっています。他には農地転用や相続業務を少し。ここまで絞り込むのに20年は掛かりました。

(通) 業務で印象に残っていることはありますか。

(若) 依頼されたことを遂行するのが仕事ですから、仕事に濃淡はありません。

(通) ご趣味と業務はどのように両立されていますか。

(若) 70歳を迎えるとき、何かを残しておきたいと思い小説を書き始めました。一昨年に「小説米山甚句」を俳句誌「栈雲」に発表、今年は二作目「椰子の実」が長塚節文学賞を受賞しました。午前中は文学、午後は行政書士の生活を送っております。

(通) 目標とされる人物像はありますか。

(若) 仕事をすることに目標や人物像は似合わないと考えますので、ありません。

趣味の点では、今、俳聖松尾芭蕉を繰り返し読んでいます。学生時代は島崎藤村、川端康成やゴーリキーなどよく読み、大人になってからも事業の傍らシナリオの書き方を習っていました。民謡や三味線の勉強をしたこともありますよ。

(通) 新人へのメッセージはありますか。

(若) 好きなこと(分野)へ好きなように取り込むと良いと思います。貧乏でも飯は食えます。

(通) これからの目標はありますか。

(若) 俳人協会賞など俳句で大きな賞を取りたいですね。句会で勉強しながら、新聞にも毎月投稿しています。

(通) 若杉先生、ありがとうございました！

